2023年度 **研究デザイン**　　亀山市立関小学校

教育大綱　基本方針－１

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

（1）　すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
（2）　教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
（3）　人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。

1.学校教育目標

じぶんで　なかまと　ふるさとから　学ぶ　夢豊かに　しあわせに
～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、なかまと共に、自ら取り組む子の育成～

2.研究主題

関小学校研究主題
話したい　ききたい　書きたい
～自分の思いを表現し、子どもの言葉で伝え合える授業づくり～

3.研究主題設定の理由

①児童の実態

本校は、ほとんどの児童が幼稚園・保育園から同じ集団で過ごし、成長してきていることもあり、休み時間になると同学年だけでなく、異学年の子とも仲良く遊ぶ姿が見られる。しかし、同じ集団で過ごしてきたことにより、人間関係が固定化されており、自分に対しても友だちに対しても、これまでの見方や考え方から抜け出せない傾向が見られる。まわりの友だちから自分が認められているという自己肯定感が低い子どももいる。

本年度から「ととのえる」を合言葉に、「時間（チャイム等の時間の厳守）」「言葉（あいさつ・返事・言葉遣い）」「整頓（掃除・ロッカーや靴箱等身の回りのこと）」などを重点に置き、児童も教職員も、みんなでよりよい学校生活に向けて取り組んでいる。

児童は、これまでノートの書き方や授業時のあいさつ等の学習規律もそろえてきたことで、学年や教師が変わってもスムーズに授業に臨むことができている。一つ一つの学習課題や課題解決に意欲的に取り組む姿が見られるようになってきた一方で、自分の考えを発表することに自信をもてなかったり、自分の考えを具体的に相手に伝えられなかったりする姿が見られる。

そこで、国語科の「話す・聞く」を中心に研究し、児童同士で広げたり深めたりしながらみんなで考える姿を目指すとともに、教師の出場を見極め、考えを深めさせることができる授業づくりについて追究する。

②これまでの取組、これまでの成果・課題

昨年度まで、研究領域を国語・自立活動に設定し、「話したい　ききたい　書きたい　～自分の思いを表現し、子どもの言葉で伝え合える授業づくり～」を目指して研究を進めてきた。

単元の初めに、教材を通してどのような力をつけるのかを明確にし、単元の学習の流れも明示することによって、学習の流れがつかみやすく、主体的に学ぼうとする態度につなげることができた。また、児童は、自分たちがどんな活動をすれば単元のめあてを達成できるかを考える姿が見られるようになるとともに、学習の目的が明確になることで「話したい」という姿に近づくことができた。特別支援学級においては、児童が日常生活で生かすことができる力をつけること及び児童と原学級とのつながりを意識することを大切に、自立活動を進めることができた。さらに、全教員による教材研究では、単元計画から検討することにより、児童の実態や教材の内容、指導事項等すべてを関連させながら話し合うことができ、それぞれの学年でどのような力をつける必要があるのか、教員間で改めて確認することができた。

児童の「話したい」という気持ちは感じられるようになった一方で、自分の考えをいかに相手に伝えるかということや、「ききたい」という気持ちが児童に備わりきっていないことなどが課題として挙げられる。教員が児童の言葉にどのように切り返し学びを深めるのか、児童が自身の言葉でつながるにはどのような力をつける必要があるのかなどについて検討していく必要がある。

4. 研究主題について

「話したい、ききたい、書きたい」と、児童が主体的に学習に取り組み、自分の思いや考えを、自信をもって表現する姿をめざす。そして、児童が、友だちの考えを認め合い、自分の考えと比べながらきき、**「子どもの言葉」で伝え合い**、お互いの学びを深めたり広げたりできるような授業づくりを目指す。

学校教育目標

関中学校区の研究主題

『自他の尊厳や多様な価値観を認め、共に学び、主体的に行動する児童・生徒の育成』

【児童につけたい力】

① 自分から進んで学び、自分事として話をきき、考える力

② 自分の考えを、適切な言葉を使って書いたり話したりして表現する力

③ 自分の考えと友だちの考えを比べながら話をきき、考えを広げたり深めたりする力

【児童の実態】

・学習規律を守り、意欲的に学習に取り組むことができる。

・友だちの考えを受け止め、自分の考えと比べることができる。

・考えを発表することに自信がもてなかったり、具体的に相手に伝えられなかったりする。

5. 研究領域

【国語科】

国語科でつけた力を、他の教科や普段の生活でも活かし、自分の考えを伝えることの楽しさや達成感を味わわせるとともに、児童がお互いの考えを伝え合うことを通して、自分の、学びを深めたり、仲間とともに高め合ったりしていける子どもの育成を目指す。

6. 研究構想図

じぶんで なかまと ふるさとから 学ぶ 夢豊かに しあわせに
～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、なかまと共に、自ら取り組む子の育成～

めざす子どもの姿

・「やってみたい」「もっとこうしたい」と見通しを立てて、主体的に学習に取り組む姿
・友だちの考えをきいて「自分の考えが深まった」「わかるようになった」と学び合う姿
・自信をもって、自分の考えを話したり書いたりして表現する姿

研究主題

話したい ききたい 書きたい
～自分の思いを表現し、子どもの言葉で伝え合える授業づくり ～

研究領域：国語科

基礎的な言葉の力 話す・きく力の育成

〇図書館との 連携
〇「話す・きく」ことの質の向上
〇子どもの言葉を大切に
〇国語辞典や「言葉の宝箱」の活用

話したい・ききたい・書きたいと思える授業づくり

〇単元のゴールの明確化
〇目的に合った子ども同士の交流
〇教師の出場の見極め

教師力の向上

〇教師全員で教材研究
〇事後検討会の充実
〇「みんくる」の 充実

【児童の実態】
・学習規律を守り、意欲的に学習に取り組むことができる。
・友だちの考えを受け止め、自分の考えと比べることができる。
・考えを発表することに自信がもてなかったり、具体的に相手に伝えられなかったりする。
・物語の一つ一つの言葉に着目して読むことに課題が見られる。

7. 具体的な取組

(1) 授業づくり

・単元でつける力を見通す。
・目的を明確化させた上での児童同士の交流を取り入れた授業づくりをする。
・自分の立場が分かったり、児童の言葉が残ったりするような板書の工夫をする。
・きく力の質を向上させる(聞く→聴く→訊く)。
・授業で分かったことや考えが変わったことなどを、「ふりかえり」で書くよう指導する。
・考えを深めさせる発問・切り返しを研究する。
・学校図書館と連携した絵本等を活用した取り組みを強化する。
・朝学を活用して、様々な物語や言葉に触れ、言葉にこだわって読めるようにする。
・言葉の宝箱と国語辞典を活用して語彙を豊かにする。
・学習に用いる言葉の意味をおさえ、様々な場面で活用する。

(2) 学習の基盤づくり

家庭学習、自主学習
・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習への理解と協力を呼びかける。
・家庭学習の内容として、「読み・書き・計算」と「自主学習」を取り入れる。
・自主学習については、「自主学習掲示コーナー」を設け、手本となる自主学習を紹介する。

読書活動
・毎週水曜日の「読書タイム」や日々の読書活動を通して、本への興味関心を広げる。
・様々な教科の単元に合わせて、教室または教室前廊下に「この本、読んでみようコーナー」を設置する。

学習規律の定着
・学習に必要な持ち物、話し方・きき方など学習規律の統一と定着。

(3) なかまづくり

・「見つめる子」を中心とした学級づくり
・Q−U分析を活かした学級づくり ・支援を必要とする子どもたちの共通理解

(4) 教職員の力量を高めるために

・指導主事を招聘した研究授業
教材研究 ・・・研究授業で扱う教材の教材研究を教職員全員で行う。
事前検討会・・・指導案検討および模擬授業を行う。
研究授業 ・・・めざす子ども像をもとに討議の柱を設定し、授業を見る視点を統一する。
事後検討会・・・RoundStudy で話し合う。授業の板書を活用しながら、討議の柱を中心に協議する。
経験年数や肩書にしばられず、どの教職員も自由に意見を伝え合える場を設定する。
・みんくる(みんなの研修はみんなでつくる)の充実
教職員の「学びたい」「知りたい」を中心に据え、各自の実践等を語り合う時間を設定する。